

アルトの皆様

6日は練習お疲れ様でした。

今後は芦原小と違って狭い場所での練習になりますが、一人一人が響きをしっかりと保ち、より集中して歌っていきましょう。

では、練習日誌をお送りします。

●4月6日（土）14時00分～16時50分

●東部福祉センター 2階大会議室

●参加人数 S/10、A/14、T/4、B/5

○はじまり

- ・出だしの「はたけがあり」の「はたけ」は直ぐいかないで一音ずつ大事に歌う
- ・19小節「あるー」の4分休符は伴奏の最後のアクセントを感じて1.2.3で20小節「せなかをのぼして」に入る
- ・42小節の「ひかりがかけぬけた」はもっとしっかり一つずつアクセントを付けて、44小節の「かぜがおいぬいた」は大きな風が吹き抜けるように横の流れを感じて

○雨

- ・気持ちをガラッと切り替えて、出だしの「ふりしきれあめよ」は深い響きの声で
- ・練習4「ゆるしあえぬ」は強くはないが、許しあえない物にも平等に降ると言う気持ちを込める
- ・スタートから練習番号5まではゆったりとして、練習番号6から流れが出てきて、7ページ下「なおふみたえるねに」で止めて、練習番号7からは雨の生命力を感じた流れになり、練習番号8「こだちをこだちに」で再生させて練習番号9「おお、おお」の感嘆詞は少し重い感じで

○花

- ・練習番号H「ふみしめて」はmpなので強くは歌わないが、大地を強く踏み締める気持ちで

○温かいシチュー

- ・13小節「かきまわせ、かきまわせ」は少し粘土がある感じで
- ・37小節「こんやも、あすも、そのつぎの日も」は全て平べったく歌わずにそれぞれ分ける感じで
- ・59小節「あたらしい武器を」と「つかいたがっている」は切らないで前に進む感じで、全てカチカチしないでしゃべっている感じで、そしてmpなので力を抜いて気楽な気持ちで
- ・メゾ63小節「かぞくそろって」の「そろって」mからIに上がる場所は、いい加減にしないできちんと上がる
- ・70小節「よー」は一度ディクレッシェンドしてからクレッシェンドして、71小節「よー」は付点四分休符まで伸ばし過ぎない
- ・102小節「だから」の後「せかいじゅう」は休まずにいかないと遅れる
- ・118小節「だから、せかいじゅうの、おんなたちよ」の「おんなたち」からテヌートが付いているので入りに気を付ける
- ・152小節最後の「か」から一旦弱くしていたが、止めて強いまま歌う（元に戻して楽譜の通り）

## ○アルデバラン

- ・練習番号 A、スタートからエッジが効いた感じで危機感を感じてサラッと歌わない
- ・練習番号 H はピアノ伴奏が薄れていき、ホールが広くて立ち位置が今より離れるため、他のパートの音を当てにすると自分のパートがどんどん遅れてしまうので、必ず指揮を見て一歩づつ一緒に歩む感じで

## ○母の手

- ・スタートは前奏のピアノが鳴っていない部分を感じてから歌い始める
- ・8 小節「よわさと一かなしみが」は繋げて、ソプラノがどう言うふうにいるか感じながら、合わせて歌う
- ・22 小節「Ah」は p で、男性のメロディが聴こえるように
- ・56 小節「たたかせてもらおう」は柔らかくふんわりした感じで、58 小節 mf から 59 小節 f (喜びを感じて) までしっかりクレッシェンドして、62 小節「かぜにゆれる」は重くしないで風に揺れている爽やかな感じで
- ・69 小節「ひーがー」から「ほんとうに」はクレッシェンドのまま急に弱くしないで
- ・71 小節「くるような」は最後の「な」が抜けないように大事に

## ○等圧線

- ・3 小節と 11 小節の他度々出てくる「なかったー」の 8 分休符の後の「たー」の入りが早くならないように気を付ける
- ・最後の「けー」クレッシェンドは喉声にならないようしっかり支えて

## ○AVE MARIA

### ○Ave Verum

### ○Kyrie

### ○Gloria

### ○Credo

- ・77 小節「o-rum」の「rum」は 4 分音符で切る

### ○Sanctus

- ・スタートの「San-ctus」は伴奏のリズムを体で感じてイメージしながら。

### ○Benedictus

### ○Agnus Dei

## ○あなたのことを

- ・最後のハミングは良く響かせて段々減っていく感じ

以上です